

所 属 鳥取県漁業協同組合（網代港支所）  
氏 名 はまだ まさき  
濱田 優樹 （57歳）  
船 名 しょうほうまる 119トン  
漁業種類 沖合底びき網漁業



### ～金色の印と共に、前船の魂を引き継いで～

網代の屈強な沖底船の中で、金色鳳印を見つけたならば、それこそが濱田優樹さんが船長を務める祥鳳丸である。この鳳印は、濱田さんは船長を務めた前船から引き継いだものであり、去年進水式を迎えたばかりの祥鳳丸は前船の魂を引き継いでいる。

網代で生まれ育った濱田さんは、中学を卒業後に沖底船で漁師生活をスタートさせ、今も沖合底びき網漁業を続けている。当初は、辛いことが多かった。それでも漁業を続けられたのは、沖合底びき網漁業が好きだったからだとする。船長になった今では、責任感と共にやりがいも生まれたそうだ。

沖合底びき網漁業の楽しさを知る反面、難しさも良く知っている濱田さん。この漁業では船員一丸となった高度な連携作業を行う必要があり、チームワークが大切なのだ。船員をまとめるのは船長であり、誰でも出来る仕事ではない。任せるには、経験と修行を積む必要がある。現在、濱田さんは後任者育成に力を入れている。前船の魂は、次の世代へと引き継がれていくのだ。

### ～網代の海を知り尽くす～

濱田さんの趣味は、子供の頃から一貫して網代の海での釣りと、素潜りである。でも仕事と趣味は別なのだそうだ。網代の海を見続けた濱田さんは、小さな海の変化にも敏感であり、今回の取材でも平年に比べクラゲが減少しているなどを報告していただいた。まさに網代の海を知り尽くすスペシャリストだ。

（文責：藤岡 秀文）